

第2次千葉市文化芸術振興計画 1次評価シート

基本施策名	基本施策1_文化芸術に親しむ市民の裾野を「広げる」		
	(2)参加・体験活動の推進		
事業名	小・中・特別支援学校鑑賞教育推進事業		
実施主体	指定管理者	(名称) 公益財団法人千葉市教育振興財団	
市との関わり	その他	企画提案業務	指定管理者
市担当課	市民局生活文化スポーツ部文化振興課		(連絡先) 245-5961 (内) 90-2526

事業概要	開始年度	平成15年度			
	事業費	(予算) 市： 1,188	その他： 0	(決算) 市： 962	その他： 0
	内容	公益財団法人千葉市教育振興財団が主催する市の受託事業のうち、教育普及事業（学校との連携）に関する業務に該当。市内小・中・支援学校の児童生徒が美術館の借り上げたバスで団体来館し、6～8人のグループに分かれ、学芸員やボランティアスタッフによる鑑賞リーダーと共に展覧会を鑑賞する。また、学校の自主的な来館についても、同様の対応を行った。			
	目的	学校で行なう制作・創作教育と並んで重要な鑑賞教育を推進し、これまで美術館を訪れた経験のない子どもたちを中心に、作品鑑賞および美術館体験の機会を設け、児童・生徒に豊かな芸術に接する機会を提供する。			
	目標	(数値) 1400人		(昨年度) 1230人	
	ねらい	<p>(対象)市内小中支援学校の児童生徒</p> <p>(求める効果) 対話形式のグループ鑑賞と個人鑑賞を通して、子どもたちが美術館で美術作品と出会う機会をより感動的、印象的なものにするとともに、主体的に鑑賞を楽しむ力を育む。また、学校との連携により、授業や日常生活と関連付けた視点から美術作品を鑑賞し、美術館をこれまで自分の知らなかった物事に出会える楽しい場所として経験してもらうことで、一度きりの特別な体験ではなく、今後の継続的な来館へとつながる流れを作る。</p> <p>(アプローチ方法) 企画展内容の事前告知や学校事業とのスケジュール調整、担任教諭との事前打合せを通して、参加校の児童生徒の実態に沿ったプログラム作成を行った。学校や学年、来館時期によって異なる学校教育のカリキュラム進捗に合わせて、鑑賞授業としての適切な目標、狙いを設定した上でプログラムを組んでいる。基本的には、前半の時間で小人数グループでの対話型鑑賞を通して作品の見方を深める練習をしてから、後半の時間には学校側と話し合い設定したテーマや視点に沿ったワークシートを用い、個人鑑賞の時間を設ける形で進めた。</p>			
	実績	<p>実施日：25日間 4/23 (月)、6/11 (月)、6/14 (木)、6/26 (火)、7/17 (火)、9/6 (木)、9/7 (金)、7/25 (水)、7/26 (木)、9/26 (水)、9/27 (木)、10/2 (火)、10/22 (月)、10/23 (火)、10/26 (金)、11/30 (金)、12/4 (火)、12/6 (木)、12/7 (金)、1/28 (月)、1/29 (火)、1/30 (水)、2/1 (金)、2/5 (火)、2/8 (金)</p> <p>参加校31校、参加者数1593人（引率教員数含む） *詳細は別紙1を参照。</p>			
	情報発信	<input type="checkbox"/> 市政だより <input checked="" type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> ポスター・チラシ <input type="checkbox"/> フェイスブック・ツイッター <input checked="" type="checkbox"/> その他（各学校への文書案内、メール通知、市教研での告知）			

【評価指標】 4：妥当、3：ほぼ妥当、2：工夫により改善、1：見直し

1 基本 施策 との 適合	(1) 妥 当 性	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 事業の目的が、これまでに美術館を訪れた経験の少ない子どもたちを対象に美術館体験（作品鑑賞）支援の仕組みを用意することで、今後の美術館利用の契機を創出することであり、文化芸術活動を気軽に参加・体験できる機会を通じて市民の活動へのきっかけづくりを推奨することに合致し、基本施策1（2）参加体験型活動の推進に沿っている。
	(2) 達 成 度	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 児童生徒数の多い学校・学年の来館希望に関して、午前・午後に分かれての来館や鑑賞にあたっての会場移動の経路等を工夫することにより、前年度よりも多くの参加者数を受け入れることができた。また、前年度以前の参加校からの継続参加希望も多く、美術館の借り上げたバスではなく、公共交通機関を使った自主的な来館方法を取る学校も見られるようになった。
	(3) 波 及		(評価の内容) 企画展内容の事前告知および担任教員との事前打合せを通して、参加校の児童生徒の実態に沿ったプログラム作成を行うことで、基本施策1（2）がねらいとする、学校等における文化芸術活動の充実に寄与することができた。また、美術館ボランティアとの協力を深め、千葉大学との連携の機会を設けることができたことは、基本施策2（3）がねらいとする文化芸術活動を支える人材の育成や、基本施策4（2）がねらいとする多様な協働、連携の促進についても叶うものである。
2 戦 略 的 な 視 点 ・ 基 本 姿 勢 と の 適 合	(1) 市 民 主 体	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 本事業においては、前半のグループ鑑賞のファシリテーターとして市民ボランティアによる鑑賞リーダーを起用している。事前に研修を受け、本事業の狙いを共有したボランティアスタッフとともに、展覧会毎に学習会を開催した上で、グループ鑑賞を実施した。また、9/26の椎名小学校来館に関しては、千葉大学との連携事業として、当日の鑑賞プログラムだけでなく学校での事前・事後授業を含め、美術の教員を目指す教育学部の大学生・大学院生らが主体となって準備し、当日のファシリテーターも担当するという鑑賞プログラムを実施した。このような取り組みを通して、市民が主体となる文化芸術活動の活性化に寄与できたと考える。さらに、このような外部からの視点もたらされることで、美術館側も新たな気づきを得ることができた。
	(2) こ ど も ・ 若 者	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 本事業は、小学校4年生から中学3年生までを対象としており、学校教育のスケジュールやカリキュラム進捗に合わせて、例年と同様に小学校5・6年生を中心とした参加希望が多く見られた。また、引率教員からは、子どもたちが普段の学校生活の中で見せる態度や発言とは異なる一面を見ることができたという意見や、特に若手の教員からは、今まで市美術館を個人的に訪れる機会が少なかったが、自身の美術館活動への関心を高める機会にもなったとの声が寄せられた。
	(3) 領 域 の 広 がり	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 企画展毎に平均4～5校の来館があり、それぞれに異なる時代や傾向の作品を鑑賞してもらった。市美術館では毎年、年代や傾向の異なる幅広いジャンルでの企画展を開催している。いずれの展覧会でも、子どもたちが普段の学校教育の中で目にするものとは大きく異なる作品に触れる機会となり、引率教員からは、子どもたちや自身の視野が広がる機会になったことや、今後の継続的な参加を希望する声が寄せられた。
		(評価に関連する数値等) 参加校の意見については「アンケート回答」を参照	

3	事業のねらい	(1) 妥当性	<p>(評価の理由)</p> <p>美術館について、本館に限らず、敷居の高さを感じている市民は未だに少なくない。そのような中で、家庭環境やその他様々な事情から、美術館に来館する機会をなかなか持てないという児童生徒の数は少なくない。作品鑑賞や美術館そのものに関心を高め、愛着を持ってもらうきっかけを作り、子どもたちの自主的な来館の動機付けを目指す本事業のねらいは、関連づけられる基本施策1(2)に則しており、同時に基本施策2(3)や基本施策4(2)についても効果をひろげていることを鑑みても、妥当と考える。</p>
		(評価に関連する数値等)	
3	事業のねらい	(2) アプローチ	<p>(評価の理由)</p> <p>学校とのスケジュール調整、担任教諭との事前打合せを通して、参加校の児童生徒の実態に沿ったプログラム作成を行った。基本的には、前半で小人数グループでの対話型鑑賞を通して作品の見方を深める練習をしてから、後半には学校側と話し合い設定したテーマや視点に沿ったワークシートを用い、個人鑑賞の時間を設ける形で進めた。毎校来館前後には、グループ鑑賞時にファシリテーターを務める鑑賞リーダー(市民ボランティア)との打合せと反省会を行い、より良い鑑賞に繋がる問いかけの形や進め方の工夫を考え共有するなど、プログラム改善に向けての取り組みを積極的に続けている。</p>
		(評価に関連する数値等)	
			学校との調整の流れやプログラム詳細については「スケジュール調整」「実施の様子」「椎名小事例」を、プログラム改善のためのミーティングについては別紙「リーダー活動」を参照
4	市民との関わり	(1) 満足度	<p>(評価の理由)</p> <p>参加校の担当教員から寄せられたアンケート結果、並びに引率教員からの聞き取りからは、鑑賞プログラムを通して、豊かな芸術に接する機会を得られるとともに、自分の思いを言葉にして伝えるコミュニケーション能力や、自分とは異なる他者の意見を聞き尊重する態度など、より広い意味での教育に繋がる機会としての評価が伺える。また、ファシリテーターとして活動にあたる市民ボランティアからは、子どもたちからこれまでになかった見方や、自分とは異なる感じ方考え方を教えられるなど、鑑賞リーダー側の経験の拡がりを喜ぶ声も多く、満足度の非常に高い取り組みとなっている。</p>
		(評価に関連する数値等)	
			参加校の意見については「アンケート回答」を、市民ボランティア活動については別紙「リーダー活動」を参照
4	市民との関わり	(2) 周知度	<p>(評価の理由)</p> <p>平成15年度より継続的に実施している事業であるが、各学校における認知度はまだ十分でないと感じている。教育委員会との連携を通じた各学校への案内文書送付やメール告知、研究会を訪れての口頭案内など、担当者レベルではなく、組織同士の連携や繋がりの強化を目指して様々なアプローチを試みてはいるものの、学校担当者の異動にともない、レポート参加が変動するケース等もある。今後も引き続き、学校側の運営実態に即した広報活動を工夫していきたいと考える。</p>
		(評価に関連する数値等)	

5 効 果	(1) 活動 の 活 性 化	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 学校教育や日常と関連付けた視点から美術作品を鑑賞し、新たな発見の場所としての美術館体験を通して、事後授業での学年を横断した交流や、家族への情報波及など、子どもたちの日々の生活の中に経験を持ち帰ってもらうことができた。また、学校教員からの要望を受けて、支援学級や中学校の美術部など、複数の学校が連携し合同で鑑賞学習に訪れる機会も持つようになった。
	(評価に関連する数値等)		
	(2) 費 用 対 効 果	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) バス借上げの予算が限られている中で、参加希望校との調整を行い、美術館の借上げたバスではなく、公共交通機関を使った自主的な来館を促すことで参加校および参加人数を増やすことができた。教育委員会との連携を通じた各学校への広報に加え、教員個人への声かけや要望対応など、地道な活動も有効であったと言える。各学校の満足度については、参加校からの事後アンケートからもうかがえるように、概ね良好かつ次年度以降の継続的な参加を希望する声が多かった。
(評価に関連する数値等)			
事業収支予算決算は別添			
(3) そ の 他 の 効 果		(評価の内容) ※上記(1)(2)以外の効果があった場合のみ記載(地域活性化等なんでも可) 15年に及ぶ継続的な事業を経て、小学校で本事業に参加した児童が、中学校の職場体験で美術館を希望したり、高校生になってからも美術館を訪れたり、子どもたちの自主的な美術館活用へと繋がる事例が見られるようになってきている。子どもにとっては、「正解のない」問いに対し、自分の感性を信じて発した言葉を皆に受け止めてもらえるなど、学校教育のシステムとは異なる自己肯定の機会ともなった。	
(評価に関連する数値等)			
市民ボランティアの意見については別紙「リーダー活動」を参照			